



2025年の市場の注目点

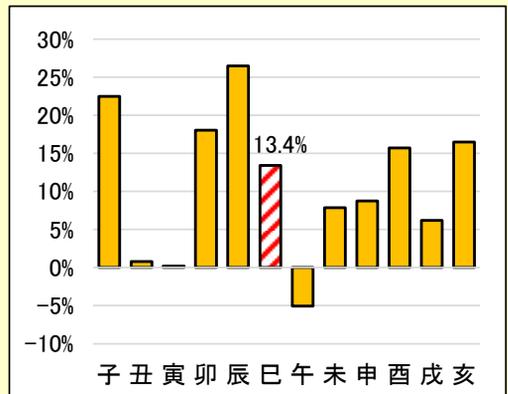
2024年の市場では、株価は年初から堅調で、日経平均は2月に史上最高値を更新しましたが、夏には史上最大の下落・上昇など、荒い値動きもみられました。

2025年の市場はどうなるか、政治・経済などの注目点を確認しておきましょう！

巳年の相場は・・・？

- 2025年は**乙巳**(きのと・み)。相場の干支格言では「**辰巳天井**」と言われ、株価は辰年から巳年にかけて高値をつけやすいとされます。十二支別の過去の**日経平均の値動き**を見ると、巳年は**平均騰落率では中位**ですが、**直近3回は変動が大きく**、前回**2013年**はアベノミクス相場で**50%超上昇**、その前の**2001年**は米同時多発テロもあり**20%超下落**、さらに前の**1989年**は**30%近く上昇**して**バブルの天井**をつけました。
- 今年はそのバブルの天井を35年ぶりに上抜けました。バブル崩壊後、3度目の巳年の2025年も、今年つけた最高値を更新してほしいものです。

【十二支別の日経平均騰落率】

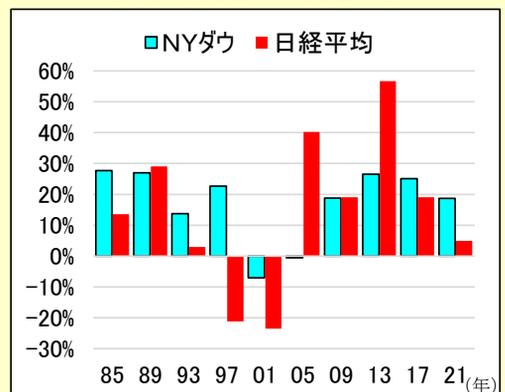


※1950～2024年の平均(2024年は12/17まで)
(出所)QUICKよりちばぎんアセットマネジメント作成

政治の環境は・・・

- 2025年、**米国**では1月20日にトランプ氏が大統領に就任します。**大統領就任の年の株価**は、直近40年(10回)の平均で**NYダウが+17%**、**日経平均は+14%**とともに2桁の上昇で、就任2年目、3年目、4年目と比べても**良好**でした。2025年は行動が読めないトランプ氏が就任することで波乱もありそうですが、同氏が**前回就任した2017年**はNYダウが+25%、日経平均は+19%と**堅調**でした。
- 共和党が大統領・議会を押さえた米国と違い、**国内**は**少数与党**で国会運営が難航しそうです。夏に参院選を控え、負担増の議論は先送りされそうな一方、野党からの減税圧力は強く、**景気押し上げも期待**され、**株価にとって悪くない環境**といえそうです。

【大統領就任年の騰落率】



(出所)QUICKよりちばぎんアセットマネジメント作成



経済・金融の環境は…

- **米国経済**は**堅調**です。トランプ氏が掲げる**減税**や**規制緩和**が進めば、さらなる**景気加速**要因となりそうです。ただ広範な**関税**がかけられると、米国企業にも負の影響があるほか、このところ鈍化が足踏みしている**インフレ**の**再燃リスク**が高まります。FRBは現時点で2025年に2回利下げを見込んでいますが、実際のペースは**インフレ次第**となるでしょう。
- **日本経済**は**緩やかな回復局面**にあります。**所得環境の改善**を受けて**個人消費**が上向いてきたなかで、2025年も引き続き**高めの賃上げ**が期待できる状況です。日銀は1月にも**追加利上げ**を行うとみられており、焦点はその次の利上げ時期となりそうです。
- **企業業績**は日米とも2025年度にかけ**改善**が予想されています。

◀このような環境下で、市場の見通しは…？▶

【為替】米国のインフレ鈍化が進めば米金利が低下し、円高方向の動きが予想されます。

【株価】企業業績の改善を背景に、日米とも底堅い動きが期待されます。ただトランプ氏が実際に広範な関税あるいは中国に高率関税を課すなど貿易紛争が激化する場合は値動きが重くなりそうです。

2025年の主要スケジュール

月	国内	米国	その他海外・国際イベント
1月	・ 日銀金融政策決定会合(23-24日) ・ 通常国会召集	・ 連邦議会開会(3日) ・ トランプ大統領就任(20日) ・ FOMC(28日-29日)	・ 世界経済フォーラム(ダボス会議、20-24日) ・ 中国春節休暇(28日-2月4日) ・ IMF世界経済見通し
2月			・ ドイツ連邦議会選挙(23日)
3月	・ 春闘集中回答日(11-13日) ・ 日銀金融政策決定会合(18-19日)	・ FOMC(18-19日)	・ 中国全国人民代表大会(全人代)
4月	・ 大阪・関西万博(-10月13日) ・ 金融政策決定会合(30日-5月1日)		・ IMF世界経済見通し
5月		・ FOMC(6-7日)	
6月	・ 日銀金融政策決定会合(16-17日) ・ 政府「骨太の方針」	・ FOMC(17-18日)	・ G7サミット(加・カナダスキス)
7月	・ 日銀金融政策決定会合(30-31日) ・ 参議院議員選挙 ・ 都議会議員選挙	・ FOMC(29-30日)	・ IMF世界経済見通し
8月		・ ジャクソンホール会議(金融シンポジウム)	
9月	・ 日銀金融政策決定会合(18-19日)	・ FOMC(16-17日)	
10月	・ 日銀金融政策決定会合(29-30日)	・ FOMC(28-29日)	・ 中国国慶節休暇(1-8日) ・ IMF世界経済見通し
11月			・ G20サミット(南ア・ヨハネスブルグ) ・ COP30(伯・ベレン)
12月	・ 日銀金融政策決定会合(18-19日)	・ FOMC(9-10日)	・ 中国中央経済工作会議

(出所)ちばぎんアセットマネジメント作成

(注)スケジュールは変更になることがあります。

- 本資料はちばぎんアセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。
- 本資料に掲載されている当社の意見ならびに予測は資料作成時点のものであり、予告なしに変更することがあります。また、本資料は当社が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいて作成されていますが、その情報の正確性および完全性について当社が保証するものではありません。本資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを示唆あるいは保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。
- 本資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。